

1970年以降、王子グループはさまざまな分野で海外展開を進めてきました。このコーナーでは、世界各国で事業活動を拡大させてきた各社の挑戦を紹介します。

- 1 2014.03 設立 **Oji GS Packaging (Yangon) Co., Ltd.** ミャンマー
- 2 2014.12 G参入 **Oji Fibre Solutions (OjiFS)** ニュージーランド オーストラリア
- 3 2015.01 設立 **PT Oji Indo Makmur Perkasa** インドネシア
- 4 2016.05 G参入 **Hyper-Region Labels Sdn.Bhd.(HRL)** マレーシア
- 5 2022.09 G参入 **Adampak Pte. Ltd.** シンガポール
- 6 2023.05 G参入 **IPI S.r.l.** イタリア



since 2014

## Oji GS Packaging (Yangon) Co., Ltd.

ミャンマー

### ミャンマーにおける段ボール事業展開の中心的役割を担う

2010年にマレーシアを拠点とする東南アジア地域統括会社として設立されたOji Paper Asia (当時、OPA) は、ミャンマーにおける事業展開を検討するため、2013年にヤンゴンにOPAミャンマー支店を開設した。

ミャンマーは2011年の民営化以降、豊富な天然資源を背景に、世界各国から事業投資先として注目を集め、急速に経済発展が進んでいる。とりわけ、経済の中心地であるヤンゴンには、各国からの積極的な投資が進んでおり、繊維・縫製業や飲料・加工食品事業等の進出が続いている。一方、現地の段ボール業界では、近代的な加工設備をもつサプライヤーは限られており、王子グループでは他社に先行して工場を建設・稼働することにより、輸出産業および内需産業の成長によって期待される段ボール需要を取り込むことを目的として、2014年にOji GS Packaging (Yangon) Co., Ltd. (以下、OGPY) を設立した。ミャンマーの段ボール業界において、外資大手としては初めての進出となった。

OGPYは、マレーシアの当社子会社であるGSPPが出資し、現地パートナーとの合弁で設立され、日系企業も多く進出するヤンゴン郊外にあるミンガラドン工業団地に新たに工場を建設した。OGPYの事業管理および技術・営業支援はGSPPによって行われ、2015年8月には営業生産を開始した。2017年には拡張用地における地鎮祭を執り行った。クーデターによるミャンマー国内の経済社会が混乱する中でも、OGPYでは安定的に操業を継続しており、今後も社会的責任を果たすべく、段ボール事業に邁進していく。



①工場写真 ②2015年8月OGPYオープニングセレモニーでの進藤会長、渡副社長をはじめ、ミャンマー工業大臣 U Maung Myint氏

#### 会社概要

**会社名**  
Oji GS Packaging (Yangon) Co., Ltd.

**事業内容**  
段ボールの製造・販売

**設立年**  
2014年

**所在地**  
ミャンマー ヤンゴン北部(ミンガラドン工業団地)

#### 沿革

**2013年** MIC (Myanmar Investment Commission、ミャンマー投資委員会) 外国投資許可 承認

**2014年** Oji GS Packaging (Yangon) Co., Ltd. 設立 (OGPY)

**2015年** 操業開始

**2017年** B-1-1 地鎮祭



since 2014

## Oji Fibre Solutions (OjiFS)

ニュージーランド

オーストラリア

## NZ・豪に新拠点を獲得、針葉樹パルプで世界に挑む

2012年のホールディングス制導入前後より、王子グループは事業構造転換を強力に推し進めてきた。その中でもパルプを中心とした資源環境ビジネスの拡大、および経済成長が見込まれる国々でのパッケージ事業の展開は、事業構造転換を実現する上での大きな柱であった。

その一手として王子HDは、2014年、カーター・ホルト・ハーベイ社のパルプ・板紙・パッケージ部門（CHHPP）を産業革新機構（現INCJ）と共同買収した。買収により、世界的に貴重な針葉樹資源が豊富にある立地を生かし、針葉樹クラフトパルプを王子グループの外販パルプのラインナップに追加することができた。

また、針葉樹パルプを利用した、強度に特色のある板紙事業と、その原紙を生かすNZ・豪のパッケージング事業（段ボールおよび製袋）を取得し、発展が見込まれるオセアニアの経済成長に伴う需要を取り込むことを可能にした。

CHHPPは2015年、Oji Fibre Solutions (OjiFS) と改称し、王子グループの一員としての立場を明確にすると、上記のような大方針に則った事業活動を積極的に進めた。

2022年には王子ホールディングスがINCJから持ち分を買い取り、100%子会社化した。今後は、グループ収益へのさらなる貢献とともに、NZで長期にわたって事業を行っているPanPacや、距離的に近い東南アジアの各拠点とのシナジー・相互支援も期待されている。



①本社 (NZオークランド市) ②キンレース工場 (NZ/パルプ・板紙) ③タスマン工場 (NZ/パルプ) ④ヤタラ新工場 (豪/段ボール) ⑤クライストチャーチ新工場 (NZ/段ボール)

## 会社概要

**会社名**  
Oji Fibre Solutions

**事業内容**  
紙・パルプ製品および包装材料の製造販売

**設立年**  
1874年 (2014年王子グループ参画)

**所在地**  
ニュージーランド・オーストラリア

## 沿革

**2014年** 産業革新機構（現INCJ）と共同でCHHPP社を買収

**2015年** Oji Fibre Solutionsに商号変更

**2017年** 豪クイーンズランド州にヤタラ段ボール工場を新設

**2021年** NZクライストチャーチ段ボール工場を移転新設

**2022年** 王子ホールディングスがOjiFSのINCJ持ち分を買収。100%子会社に。

since 2015

## PT Oji Indo Makmur Perkasa

インドネシア

## 東南アジアでの生活消費財事業の生産拠点

インドネシアは、東南アジア最大の2億7千万人以上の人口を擁し、毎年約4.5百万人以上の新生児が誕生しており、近年の目覚ましい経済成長と相俟って、今後も引き続き、紙おむつ需要の伸びが期待される市場である。紙おむつ製品の商品開発力と事業競争力の強化を図るとともに、海外への事業展開促進のための基盤構築のために、2015年に合弁会社PT Oji Indo Makmur Perkasaを設立し、インドネシアにおける紙おむつの生産および販売に参入した。工場立ち上げまではOEMで生産・販売開始し、主に市場の小さな小売店舗向けに販売される1枚入りおむつの販売や1パック当たり10枚から20枚以下の商品を販売していたが、ジャンボサイズを上市とともにインドネシアのコンビニエンスストアの最大手チェーンであるインドマレットに参入し、徐々に販売先を伸ばした。

2020年には念願の自社工場が稼働開始、工場人員の名古屋工場やマレーシアOAHFでの立ち上げ前の研修等、稼働時の苦労はあったが、王子ネピア操業員による操業支援により無事に立ち上げた。その後は加工機の増設を行い、また現地操業員の熟練度も上がり、スピードアップや歩留まり向上など生産性向上に取り組んでいる。

直近の主な取り組みとしては、現行の1枚入りのおむつに加えて3枚入りも上市した。このような新しい形態の商品を市場に投入し順調に数量も増加している。今後もインドネシアの旺盛な需要に対応すべく、生産量を増やしていく。



①完成した工場 ②建設中の工場の様子 (当時) ③インドマレット店舗での垂れ幕広告 ④店舗にかかる1枚入りの商品 ⑤キャラクターのオンパちゃん

## 会社概要

**会社名**  
PT Oji Sukses Pratama

**事業内容**  
子ども用紙おむつの製造・販売

**設立年**  
2015年

**所在地**  
インドネシア

## 沿革

**2015年** PT Oji Indo Makmur Perkasaを設立

**2016年** OEM生産にて販売を開始

**2019年** ジャンボパック上市、インドマレット参入

**2020年** 自社工場での生産開始

**2021年** 3枚入りレンチェン上市

**2022年** 加工機増設



since 2016

## Hyper-Region Labels Sdn.Bhd.(HRL)

マレーシア

東南アジアにおける川下事業の展開  
およびグループシナジーの拡大

Hyper-Region Labels Sdn.Bhd. (以下HRL) の買収については2014 年ごろから検討を開始し2016年5月に買収、王子グループ傘下の会社となった。同社が行う特殊なラベルの製造、販売事業や、顧客へのワンストップサービスが情報用紙分野で川下事業への展開を検討していた機能材カンパニーのビジョンと合致。加えてマレーシアの南端のジョホールバルに位置していることから、当時手薄であったマレーシア南部、シンガポールの生産、販売拠点としての魅力も兼ね備えていた。

川上の粘着紙原紙を活かした製品開発は、コストや納期の面から苦戦したが、設備や操業指導の面では主管会社である王子イメージングメディアのサポートもあり、王子グループ内で遊休となった製版設備(CTP)を移設したり、8色フレキソ印刷機でのラベル印刷加工の増速を達成する等、グループの力を結集させて歩んできた。のちに買収したTPマレーシア、Adampakシンガポール、同地域のパッケージング会社UKBなどと連携しながら、グループシナジーの拡大を常に模索している。



● 本社・工場 ● 製品見本 ● UVフレキソ印刷機 ● 化粧箱用加工機

## 会社概要

**会社名**  
Hyper-Region Labels Sdn.Bhd.

**事業内容**  
ラベル、紙器、パンフレット、その他印刷・加工・販売

**設立年**  
2003年(2016年王子グループ参画)

**所在地**  
マレーシア

## 沿革

**2003年** 前オーナーがHyper-Region Labels Sdn.Bhd.を設立

**2016年** Oji Asia Management (OAM) が株式60%を取得し王子グループ傘下に

**2017年** 8色フレキソ印刷機を導入

**2022年** OAMが残りの株式40%を取得し、100%子会社に

since 2022

## Adampak Pte. Ltd.

シンガポール

## アジア地区における高付加価値ラベル事業の拡張

Adampakは、1979年にシンガポールで設立された。本社が所在するシンガポール以外にも、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、中国のアジア6か国に7つの工場を有している。電子タグや精密な打ち抜きを必要とする部材を含む高付加価値でカスタマイズされた高度なラベルソリューションを必要とするグローバル企業をお客様とし、ストレージ、エレクトロニクス、バッテリー、自動車、ロジスティクス、ヘルスケアといった幅広い分野に商品やサービスを提供することを目指している。デジタル印刷機、多色高速フレキソ印刷機、レタープレス印刷機、精密打ち抜き装置および高速自動検査装置といった最新鋭の生産設備を用いて、ラベルのデザインから印刷加工まで一貫生産を行い、東南アジア・中国において高いプレゼンスを確保してきた。

品質、顧客サービス、競争力のある価格および納期対応に磨きをかけてブランド価値を高め、優良なお客様と長期的に親密な関係を築いてきており、当社のスローガン「Stick with Us(いつも一緒に)」は、その姿勢を表している。

王子は、Adampakが有する高付加価値ラベルの提案力およびアジア地区での供給能力に注目。また、原紙から加工までの一貫生産を実現させて顧客価値を向上させることを目的に2022年9月に100%子会社化した。王子グループの一員として、グループ各社の高品質な製品と市場での高い認知度との相乗効果を発現させ、単なるラベル印刷会社ではないワンストップ・パッケージング・ソリューション・プロバイダーとして今まで以上にお客様に貢献していく。



● シンガポール本社 ● Aident Corporation(マレーシア・ベナン) 1994年創業当時の工場 ● ラベル加工工場 ● ● 製品例

## 会社概要

**会社名**  
Adampak Pte. Ltd.

**事業内容**  
電子タグ、ラベルプリントおよび  
断裁加工製品の製造販売

**設立年**  
1979年(2022年王子グループ参画)

**所在地**  
シンガポール

## 沿革

**1979年** シンガポールにAdampakを設立

**1994年** Adampakがマレーシア・ベナンのAident Corporationを買収

**1999年** フィリピンにAdampak&Print(Philippines)を設立

**2001年** タイにAdampak(Thailand)を設立

**2004年** 中国・蘇州にAdampak(Suzhou)を設立

**2004年** Adampakがシンガポール株式市場に上場

**2012年** Navis CapitalがAdampakを買収

**2019年** インドネシアのModagrafics Autoを買収

**2022年** 王子イメージングメディアによるAdampakの100%子会社化



since 2023

IPI S.r.l.

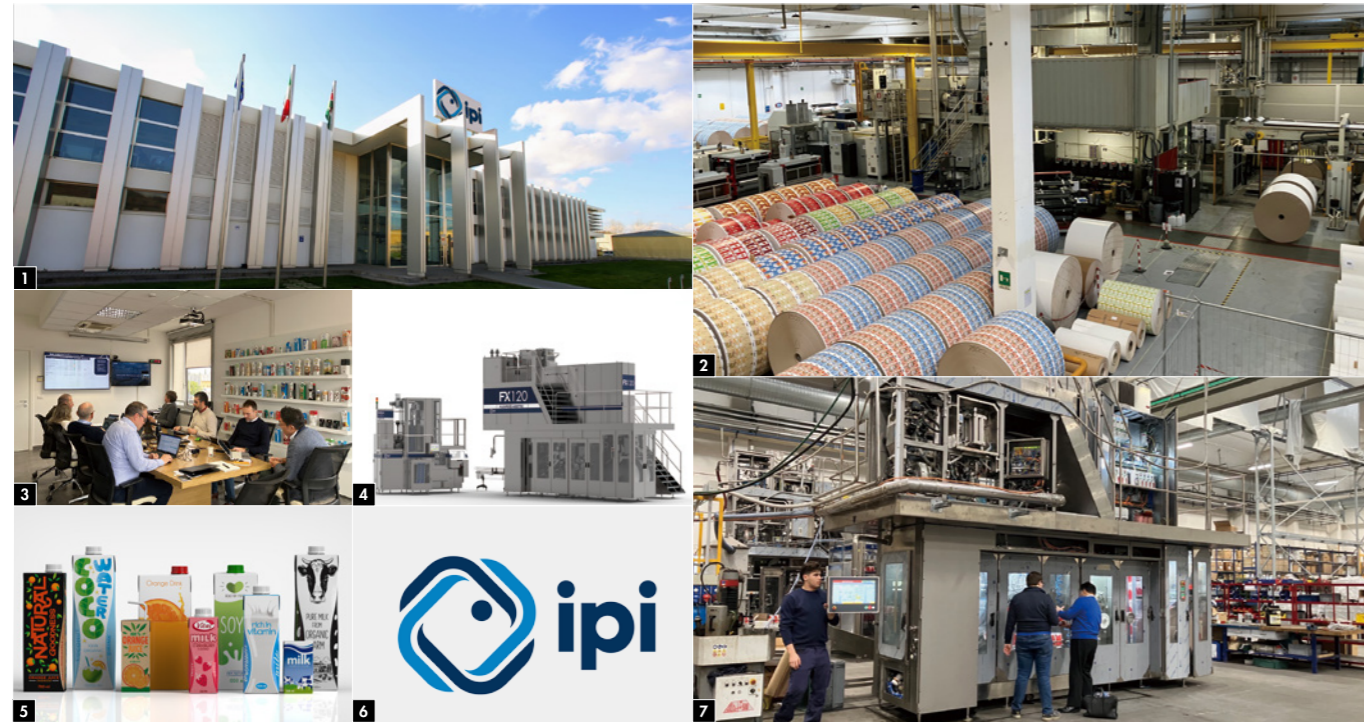
イタリア

## 液体紙容器事業の世界展開に向けて

王子グループが掲げる存在意義（パーパス）のもと、プラスチック使用量削減により持続可能な社会への実現に向けた取り組みの一環として、液体紙容器事業の拡大をすすめる中、世界の液体紙容器市場において最大規模であり、今後も新興国を中心に市場成長が見込まれるアセプティック市場への参入を目的に、2023年5月、アセプティック液体紙容器用加工紙および充填機の製造販売を行うイタリアのIPI社を買収した。アセプティック液体紙容器とは、無菌充填により、常温で半年から1年程度の長期保存が可能な液体紙容器のことで、ロングライフミルクなどの乳製品、フルーツジュース、ワイン、スープ、ソース等に用いられ、海外では冷蔵技術を要するチルドタイプよりも主流で、アジアでも毎年5%程度市場が拡大している。本買収により、王子グループはアセプティック市場における原紙・加工紙に充填機の供給も含めた総合一貫生産・供給体制が可能となった。

IPI社が持つ販売エリアはアフリカ、欧州、中東がメインであり、これまでの王子グループの活動エリアとは一線を画すものである。将来的に当該販売網を活用することで、王子グループの新たな地域への事業参入・拡大を促し、更には王子グループの強みである既存の東南アジア販売網を活用することでIPI社製品の拡販が期待される。

現在は、王子グループの一員として、IPI社が有すポテンシャルの早期かつ最大限の発揮に向け、経営や業務、従業員の意識面等の統合化に向けた各種取り組みを積極的に進めている。



●ピエールアントニオ工場（イタリア/ペルージャ）●工場内観 ●部門長月次会議風景 ●アセプティック充填機（NSA EVO & FX120）●製品見本 ●新しい会社のロゴ ●FX120開発現場風景

### 会社概要

**会社名**  
IPI S.r.l.

**事業内容**  
液体紙容器用加工紙および充填機の製造販売

**設立年**  
1981年（2023年王子グループ参画）

**所在地**  
イタリア

### 沿革

**2001年** 設立

**2005年** ペルージャに加工紙工場を新設

**2013年** Coesia社が100%株式取得

**2023年** 王子ホールディングがCoesia社より100%株式取得